復興応援団だより

2012.12.1/ N09
発行元：
一般社団法人
復興応援団
広報チーム
022-393-9331

養殖業のお手伝い

わかめの種付け作業体験

11月、復興応援団がプロジェクトで関わる南三陸町袖浜地区で、数日間、養殖業のお手伝いをしました。お手伝いしたのは民宿「下道荘」さんの養殖場です。今回は、わかめの種付け作業の様子をご紹介します。

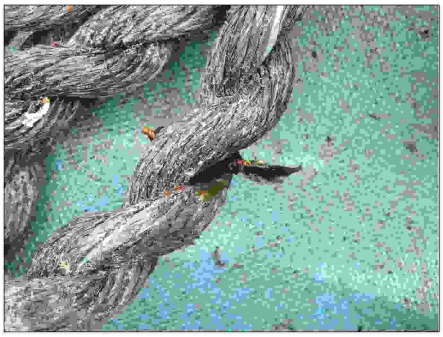
南三陸町・袖浜の民宿「下道荘」さんで、わかめの種付け作業のお手伝いをしました。わかめの種付けとは、わかめの種と呼ばれる、生後まもない小さなわかめを養殖ロープに取り付ける作業のことです。一人が養殖ロープを持ち、一人がロープをねじった部分にわかめの種をはさみこむという分担で、作業は二人一組で行われます。

好天に恵まれ、風もない穏やかな空模様の中、作業は順調に進みました。種付け作業が終わると、次は種付けされた養殖ロープを漁場に沈めに行きます。下道荘ご主人の菅原長弥さん、若旦那の由輝さんと共に、私たち復興応援団スタッフも漁船に乗り込み漁場へ出発。あたたかな日差しが海一面に反射し、船から眺める景色はとても綺麗です。

漁場に到着すると、養殖ロープを順番に海に沈めていきます。ご主人と若旦那さんは慣れた手つきです。あっという間に作業が進んでいきます。私たちもご主人の指示の下、養殖ロープを沈めるお手伝いをしました。

作業開始から約４時間後、この日の作業が終了しました。予想以上に作業がはかどり、下道荘さんにも喜んでいただけたようです。普段何気なく食べているわかめ。そのわかめが私たちの食卓に提供されるまでには、このような作業が行われているということを身をもって学ぶことができました。

この時期に種付けしたわかめは、来年の春に水揚げされる予定です。立派なわかめになってほしい、そんな思いが湧いてきた１日でした。



発見！東北グルメ

No.6 Cafe & Dinig JUGEMU（多賀城市）

隠れ家のようなおしゃれなトレーラーハウスで、バラエティ豊かなメニューが楽しめます。店主の小野崎恭子さんは、女川で経営していた居酒屋と旅館を津波で失いました。

新天地として多賀城の地を選んだのは、縁もゆかりもない土地だからこそ、新たなスタートを切るのにふさわしいという思いがあったからです。「同じ津波の被害を受けた街で、同じつらさを味わった方にほっとした時間を過ごせる場所を提供したい」。今年５月にオープンし、多くの多賀城の地元の方が足を運んでくれるようになりました。

お昼の時間帯は、日替わりの「お肉ランチ」と「お魚ランチ」がおすすめです。取材では、鶏ささみがメインのお肉のランチをいただきました。香ばしいソースがお肉を引き立て、ごはんがすすみます。お値段６８０円で、バランス良くお腹いっぱい食べられます。家庭料理のような素朴でほっとする味は、また訪れたくなること間違いなしです。

住所：多賀城市八幡４－４－６４
営業時間：10時～23時
定休日：８の付く平日
０９０－１３７８－０８０２

復興応援団とは

私たち一般社団法人復興応援団」は、地元の方が主役となった東北地域の復興のために活動しています。活動目標は①東北地域の各市町村・集落のファンを増やすこと②地元の人とファンが一体となって復興とその後のまちづくりに取り組むしくみをつくること③地元の人自身（特に若い世代）が復興とまちづくりに立ち上がる大きなうねりをおこすこと。

南三陸町では「ボランティア派遣」事業を実施しています。全国からのボランティア参加者に、地域再生に取り組む地元の方のお手伝いをし、地域の魅力に触れてもらうことで、「地域のファン」を生み出し、長期的な復興を支える人と人のつながりをつくります。

多賀城市での「支え合いネットワークづくり」事業では、今後の復興公営住宅の生活やまちづくりにもつながるような、住民の皆さんが中心になった自治コミュニティの形成を目指し、仮設住宅や見なし仮設の内外でゆるやかなネットワークづくりをお手伝いしていきます。

おらほのヒーロー

file4

高橋壮さん＝多賀城市

～仮設住宅で集いの場「ほっとサロン」運営

「皆さんの『話したい』という気持ちをくみ上げたい。私たちはあくまで場を提供するだけです」

仮設住宅の住民さんが集まる集会所でコーヒーを淹れるのは、地域活動支援センター「コスモス ホール」所長の高橋壮さんです。高橋さんや、地域の医療・福祉関係者のボランティアによって、多賀城市の仮設住宅で「ほっとサロン」が開かれています。市内全６団地を週替わりで１月半かけて一周します。集会所に集まる住民さんが、コーヒーを片手に世間話に興じます。高橋さんは、「震災に対し、地域に根ざした施設として何かやらなければ」という思いを抱いていました。仮設住宅に住む人が、お隣さんの顔も分からないという状況を知り、コミュニケーションの場をつくることを決意。１年以上継続してきたことで、住民の皆さんが定期的に参加してくれるようになりました。

「コーヒーを飲んで美味しかったというだけでも良いんです。感情を開放できる場になればと思っています」

以前はスタッフから話題を提供することが多かった会が、住民の皆さんが顔馴染みになったこともあり、テーブルを出す間もないほど会話が盛り上がります。

「こころのクリニック みどりの風」で働く作業療法士の佐藤歩美さんは、今年４月から活動に加わりました。「最初にサロンに来たときは緊張しました。被災の度合いが違うので、壁があるのではと思いました。でも、皆さんが受け入れてくれたんです」

佐藤さんの合図に合わせて、参加した住民の皆さんが『棒体操』で体を動かします。使用する棒は、佐藤さんの施設のリハビリ患者さんが作ってくれたものです。体を動かすと心もほぐれ、自然と笑顔になってしまいます。

毎回コーヒーを提供する前の時間を使い、各団地の参加者の雰囲気を見て、体操の内容も変えています。

この日サロンが開かれた山王市営住宅跡地仮設住宅では、午前に行われた復興公営住宅の説明会が話題になりました。先行きに不安もありますが、住民同士が情報を共有し、不安を打ち明け合うことで、皆で一緒に前に進むことができます。高橋さんはその様子を見つめ「もし力が必要なら相談してほしい。僕らは皆さんと繋がっていたいし、力になりたいと思っている」と力強く話します。その表情には、地域住民としての責任感と、関わってきた住民の皆さんへの強い思いがこめられていました。

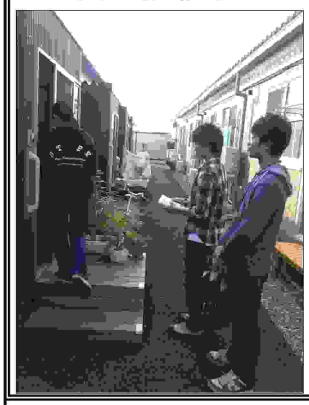
「ずっと続けてきたことで、皆さんと共に前に向かって歩んでいることが実感できています。これからも、一緒に歩む人間として、仮設住宅がある限り続けていきたいです」高橋さんは語ります。

次回の山王仮設でのサロンはまた来年。これからも集いの場は続きます。「よいお年を」帰り際、住民の方が笑顔でつぶやきました。

団だより仮設に配布

９月から、多賀城市内の仮設住宅全戸に、ご覧の復興応援団だよりをお配りしています。配布に参加しているのは、復興応援団で活動する学生のボランティアです。

住民の皆さんに直接手渡しでお配りする機会もあり、温かいお声掛けをいただいています。「これ美味しそうね～」「こんなことが載っていれば良いな」と、紙面の内容について反応を頂いたり、住民の皆さんだからこそ知りえる地域の情報を教えていただいたりもしています。



今後は、より住民の皆さんが求める情報をお届けできるよう、取材、作成に力を入れていきます。12月からも月１回各団地にお配りしていく予定です。

農業で被災者雇用応援プロジェクト#13

11月24日、25日に農業で被災者雇用応援プロジェクトを開催。南三陸町歌津地区の農家、小野花匠園さんで16名のボランティアがお手伝いをしました。今回の作業は、収穫後の菊畑に残った菊の株を回収することです。株からは「うど芽」が出ていて、これが成長して新しい菊ができます。まずは畑に根を張っている株を鍬で掘り起こします。次に株に絡みついている雑草と根に付いている土を取り除いていきます。初めは株と雑草の見分けがつかず苦戦しましたが、すぐに慣れて小野さんや他の参加者と会話をしながら楽しく作業を進めていました。今回回収した株から来年新たな菊が収穫されるのが楽しみです。

今後の予定

【南三陸】
○1月12日（土）-13日（日）農業で被災者雇用応援プロジェクト#15
○1月26日（土）-27日（日）漁業＆ブルーツーリズム開発応援プロジェクト#6

RING!RING! プロジェクト　KEIRIN.JP KEIRIN Official Website